

お茶の水大学湾岸生物教育研究センター訪問の報告書

平成18年1月24日

インタビュー対応:清本正人氏(湾岸生物教育研究センター所長)

場所:〒294-0301 千葉県館山市香 11、TEL:0470-29-0838

訪問日:2006年1月14日

調査担当者:佐藤由紀子、萱嶋泰成、金子洋之

平成17年度の GP 事業に慶応義塾大学日吉キャンパスが採択されたことを話させて頂いた後に、準備しておいた以下の質問を中心にインタビューを行った。

(1) お茶の水大学湾岸生物教育研究センターの特徴

- ① 生物種:実験所を中心に東西約3km の砂浜、小岩礁、北東約1km の地点に陸続きの沖の島有り、磯採集の適地、具体的な生物種は別紙3参照
- ② 交通の便:関東地区の大学にとって地理的に至便、東京から片道約 130km、JR 特急さざなみ 3820 円(乗車券 2210 円 + 特急券 1610 円)、館山駅⇨香駅バス代 300 円
- ③ 生物教育センターに関して:歴史(昭和 45 年 7 月9日開所)、使用可能な光学顕微鏡ならびに宿泊棟の観点から、約 30 名程度の利用可能

(2) 利用状況(別紙1参照);

(3) 臨海実習(別紙2参照)

【お茶の水大学】

- a) 動物系統学臨海実習、植物学野外実習、動物生理学臨海実習、発生生物学臨海実習・・・ 生物系の学生が対象
- b) 一般生物学・臨海実験・・・生物系以外の学生が対象。理学部(化学、物理)、生活科学部の学生は利用を勧められている。文系の学生も履修する事がある。
- c) 海洋環境学ダイビング実習
いずれも、5日で2単位

【お茶の水大学以外】

早稲田大学教育学部臨海実習28名、

東邦大学理学部生物分子学科野外実習23名

社会貢献として小中高実習・教員研修が行われる

(4) 臨海実習の概要(一部):

・一般生物学・臨海実験

生物学以外の学問分野の中でバイオサイエンスの知見を必要とする人達に具体性のある情報を与え、より高度な知識の取得のための基礎作りを目指すもので、本学での実習に加え、湾岸センターでの臨海実習では、磯採集、プランクトン採集、ウニの発生観察等を行う。

・植物学野外実習

湾岸センターとその周辺において、海産植物と陸上植物の系統分類、形態、解剖、生殖、分布を現地で観察する。

・海洋環境学ダイビング実習

海洋、特に沿岸の自然環境計測(アセスメント)の基礎となる野外観察技術の習得を目的とし、ダイビング技術、水中観察・記録技術の習得を行う。ライセンスを取得までの講習と潜水時の安全監視を民間に委託(7-8万円程度)の上で、教員による海洋生物の観察を行う。

(5) その他

・基本方針

当該教育センターは、自然科学教育の振興の観点から、業務に差し支えの無い範囲で、他大学からの利用はできる限り受け入れる方針とのこと。協力は惜しまないが、利用する大学が臨海実験のメニュー作成から実施まで行ってもらえると受入れやすくなる。現行の他大学の实習では、集中講義の非常勤講師として教育センターのスタッフが行っている。

・利用可能な時期

夏休み(7月～9月、特に7、8月)のスケジュールは、かなりいっぱいである。特に磯採

集に適した大潮周辺の時期は埋まっている。潮があまり良くない時期でもよければ受け入れ可能かもしれない。夏休み以外の時期(冬休み、春休みを含む)は、ほとんど空いている。したがって、実習メニュー(磯採集を外す)や実施時期を工夫する事によって慶應大学の利用は可能である。(毎年使用する大学が既得権的に決定されているか否かは不明)。

・お茶の水大学の実習書

リクエストすれば(清本氏の担当分に関しては)貰えるとの事。

お茶大の授業科目のシラバスは以下で公開されている。

<http://info.pr.ocha.ac.jp/syllabus/list.asp>

湾岸センターの年間スケジュールは以下を参照。

<http://marine.bio.ocha.ac.jp/>